

# トビウオ通信 (R6 第2号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-23-4806)

## 《令和5年(2023年)の島根県漁業の動向》

島根県の漁獲統計システムにより集計した県内の漁業協同組合の漁獲統計資料(属人)などから、令和5年1月～12月における島根県漁業の動向を取りまとめました(集計対象は海面の漁船漁業のみ)。

### 全体 … 総漁獲量は前年の105%・総生産額は前年の111%

令和5年の島根県(属人)の総漁獲量は10万3千トンで前年の105%(平年比110%)、総生産額は197億円で前年の111%(平年比114%)でした(表1、図2、3)。

漁業種類別の構成比は、漁獲量ではまき網が全体の83%、定置網が5%、小型機船底びき網(かけまわし)が3%、沖合底びき網(2そうびき)が2%、べにずわいがにかごが4%となりました(図2)。生産額ではまき網が全体の48%、定置網が11%、小型機船底びき網(かけまわし)が8%、沖合底びき網(2そうびき)が8%、べにずわいがにかごが7%となりました(図3)。

魚種別漁獲量の上位5種はマイワシ(3万7千トン、平年比173%)、サバ類(2万トン、平年比120%)、ウルメイワシ(1万4千トン、平年比142%)、マアジ(1万1千トン、平年比67%)、ブリ(6千トン、平年比64%)となりました(図1)。

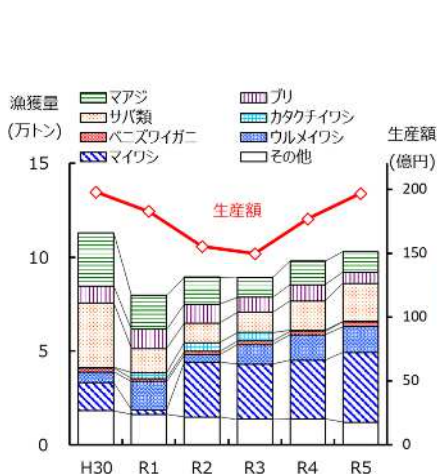


図1 総漁獲量・総生産額の推移

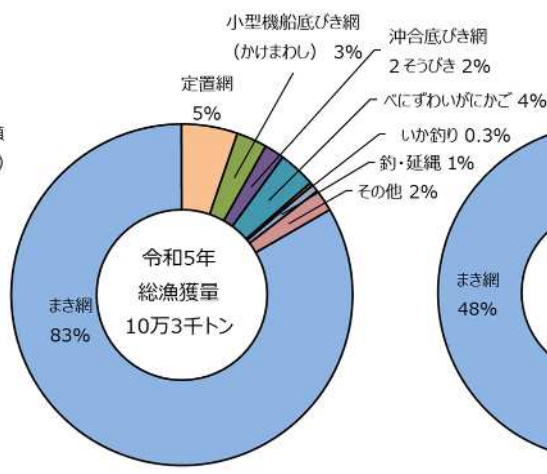


図2 漁業種類別漁獲量の割合

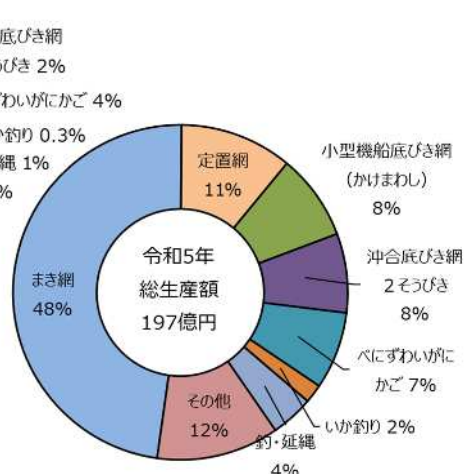


図3 漁業種類別生産額の割合

#### <文中の語句説明>

- 👉 令和5年の漁獲量・生産額及び平年比は島根県内の全地区、全経営体を対象に集計していますが、沖合底びき網2そうびきの魚種別統計は実質的に県外を根拠にしている1経営体を除いた数値と比較しています。
- 👉 「前年」は令和4年の数値、「平年」は過去5年(平成30年～令和4年)、沖合底びき網2そうびきのみ過去10年(平成25年～令和4年)の平均値を指します。
- 👉 平年との比較は、平年比が120%より高い場合は「平年を上回る」、平年比80～120%は「平年並み」、平年比が80%より低い場合は「平年を下回る」としています。

## まき網 ……中型まき網 1 船団あたりの漁獲量は前年の 108%・生産額は前年の 132%

本県の基幹漁業の一つである「まき網」には、中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。

令和5年のまき網全体の漁獲量は8万6千トンで前年の107%（平年比115%）、生産額は94億円で前年の127%（平年比128%）でした。

まき網のうち、大半を占める中型まき網の漁獲量は7万9千トンで、前年の105%（平年比117%）、生産額は83億円で前年の133%（平年比134%）でした（図4）。前年に比べて、サバ類およびマイワシの漁獲量が増加し、単価も向上したことから、その影響で生産額は増加しました。中型まき網1船団あたりの漁獲量は8千2百トンで、前年の108%（平年比126%）、生産額は8億6千万円で、前年の132%（平年比143%）と、ともに平年を上回りました。

中型まき網の魚種別漁獲量の上位5種はマイワシ（平年比172%）、サバ類（平年比134%）、ウルメイワシ（平年比137%）、マアジ（平年比65%）、ブリ（平年比58%）となりました（図4）。

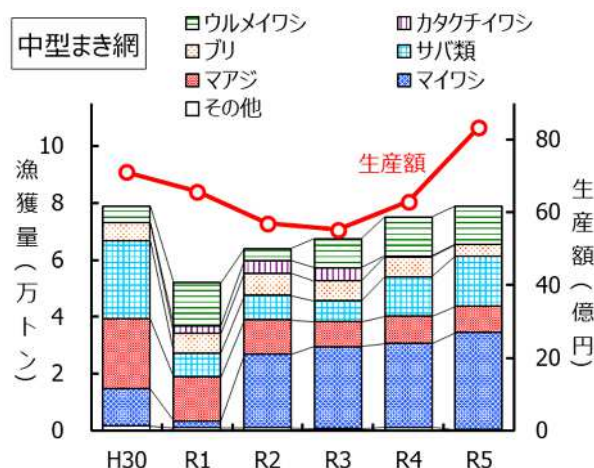


図4 中型まき網による魚種別漁獲量及び生産額の推移

## 沖合底びき網(2 そうびき) ……1 船団あたりの漁獲量は前年の 84%・生産額は前年の 104%

沖合底びき網（2 そうびき）は 2 隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ類、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。

令和5年の漁獲量は2千トンで、前年の84%（平年比52%）、生産額は15億1千万円で前年の104%（平年比80%）でした。1船団あたりの漁獲量は489トンで、前年の84%（平年比80%）、生産額は3億8千万円で前年の104%（平年比120%）と、ともに平年並みでした。

石見地区における魚種別漁獲量の上位5種はキダイ（平年比120%）、アナゴ・ハモ類（平年比79%）、アカムツ（平年比70%）、ケンサキイカ（平年比88%）、マダイ（平年比154%）となりました（図5）。

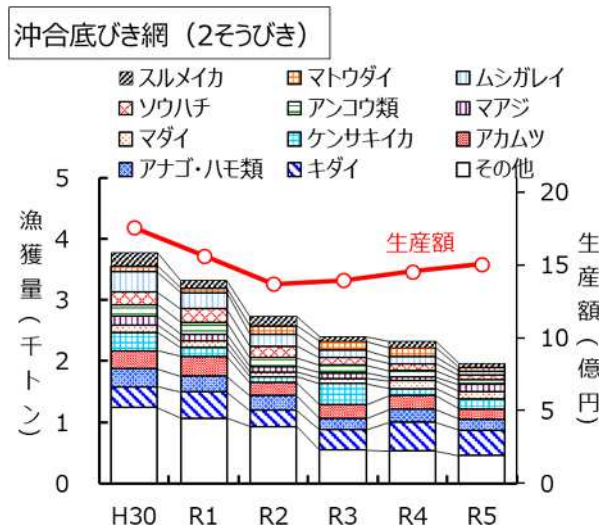


図5 石見地区の沖合底びき網(2 そうびき)による魚種別漁獲量及び生産額の推移

**小型機船底びき網(かけまわし)・・・1隻あたりの漁獲量は前年の90%・生産額は前年の98%**

小型機船底びき網(かけまわし)は、1隻の漁船で作業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。

令和5年の漁獲量は3千トンで、前年の91%(平年比85%)、生産額は16億3千万円で、前年の99%(平年比100%)でした(図6)。1隻あたりの漁獲量は81トンで前年の90%(平年比90%)、生産額は4千4百万円で前年の98%(平年比107%)と、ともに平年並みでした。

魚種別漁獲量の上位5種はソウハチ(平年比68%)、アンコウ類(平年比89%)、ニギス(平年比124%)、キダイ(平年比136%)、ヒレグロ(平年比90%)となりました(図6)。

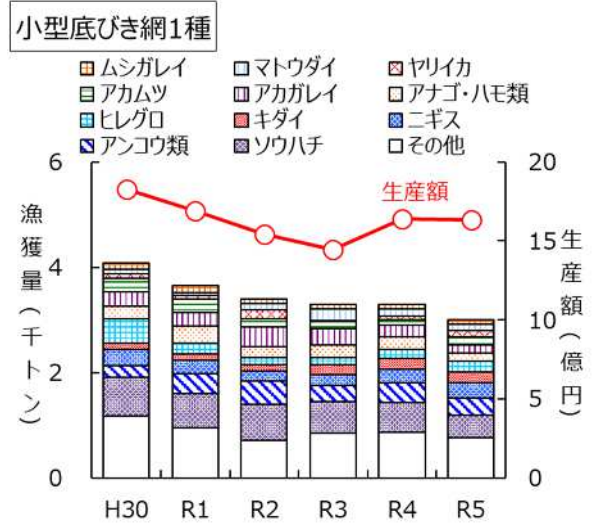


図6 小型機船底びき網(かけまわし)による魚種別漁獲量及び生産量の推移

**定置網・・・大型定置網1経営体あたりの漁獲量は前年の93%・生産額は前年の111%**

定置網(大型定置網・小型定置網・底建網)は魚の通り道に網を設置し、来遊してくる魚を漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、イカ類などを漁獲対象としています。

令和5年の漁獲量は5千5百トンで、前年の92%(平年比99%)、生産額は21億4千万円で、前年の110%(平年比111%)でした(図7)。また、大型定置網の1経営体あたりの漁獲量は247トンで前年の93%(平年比102%)、生産額は9千5百万円で前年の111%(平年比112%)でした。

海区別の漁獲量は、出雲地区は4千3百トン(平年比113%)で平年並み、石見地区は574トン(平年比70%)、隠岐地区は627トン(平年比67%)で、ともに平年を下回りました。

魚種別漁獲量の上位3種は、出雲地区ではブリ(平年比132%)、マイワシ(平年比299%)、サワラ類(平年比87%)となりました。石見地区ではマアジ(平年比61%)、ブリ(平年比127%)、サバ類(平年比57%)となりました。隠岐地区ではブリ(平年比84%)、マアジ(平年比40%)、サバ類(平年比66%)となりました。

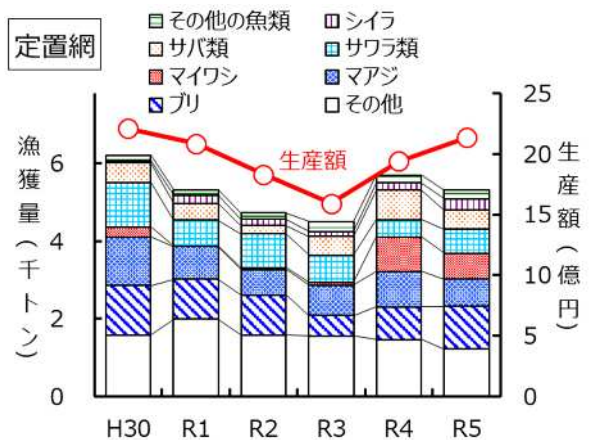


図7 定置網による魚種別漁獲量及び生産額の推移

## 釣り・延縄 … 漁獲量は前年の103%・生産額は前年の114%

釣り・延縄は、釣り竿を用いた一本釣、縄から枝状に複数の釣り針を仕掛ける延縄など、釣り針に食いついた魚を釣り揚げる漁法です。

釣り・延縄の令和5年の漁獲量は730トンで、前年の103%（前年比90%）、生産額は8億1千万円で前年の114%（前年比113%）でした（図8）。

出雲地区の漁獲量は299トン（前年比90%）、石見地区は223トン（前年比82%）、隠岐地区は207トン（前年比100%）でいずれも前年並みでした。

魚種別漁獲量の上位3種は、出雲地区ではブリ（前年比90%）、サワラ類（前年比52%）、アマダイ（前年比153%）、石見地区ではブリ（前年比81%）、アマダイ（前年比119%）、キダイ（前年比125%）、隠岐地区ではブリ（前年比74%）、カサゴ・メバル類（前年比102%）、クロマグロ（前年比131%）となりました。

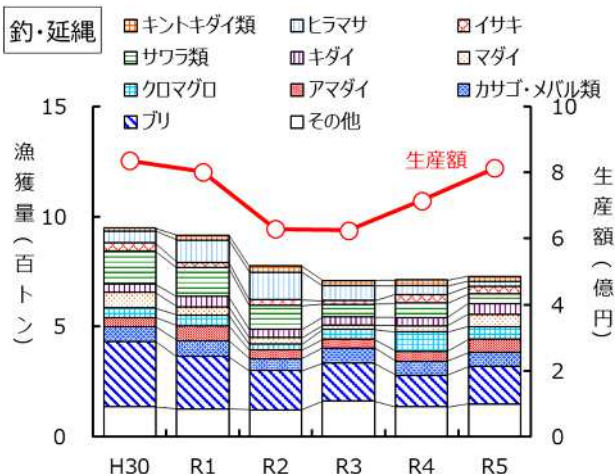


図8 釣り・延縄による魚種別漁獲量及び生産額の推移

## いか釣り … 漁獲量は前年の101%・生産額は前年の113%

いか釣りは名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。

令和5年の漁獲量は297トンで、前年の101%（前年比61%）、生産額は3億6千万円で前年の113%（前年比79%）と、ともに前年を下回りました（図9）。

魚種別の漁獲量の動向は、ケンサキイカは前年比68%、スルメイカは前年比54%、ヤリイカは前年比31%でした。

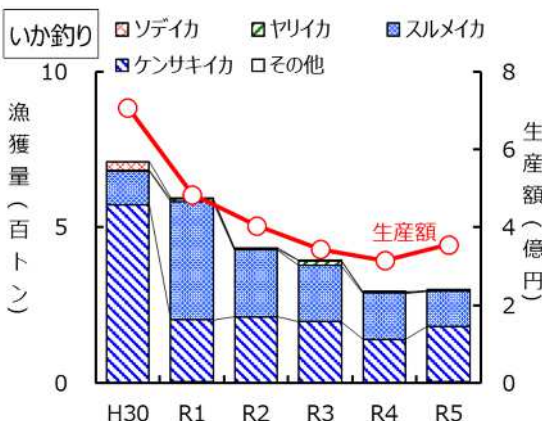


図9 いか釣りによる魚種別漁獲量及び生産額の推移

※ 各漁業の概要や「トビウオ通信」のバックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。  
 ( <https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> )

表1 令和5年の県内主要漁業の海区別漁獲量・生産額

令和5年(1～12月)の漁模様

漁業種類	海区	漁獲量※			生産額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	103,205	110%	105%	19,655	114%	111%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	2,910	75%	108%	536	74%	101%	1,608	102%	○	285	99%	○
	隠岐	75,976	120%	105%	7,802	142%	136%	9,527	120%	○	986	143%	◎
沖合底びき網 (2そう曳き)	石見	1,957	52%	84%	1,508	80%	104%	489	80%	○	377	120%	○
小型機船底びき網 (かけまわし)	石見	2,729	81%	90%	1,454	96%	98%	80	89%	○	43	104%	○
定置網 ※※	出雲	4,278	113%	98%	1,631	117%	115%	305	113%	○	115	116%	○
	石見	574	70%	72%	219	94%	98%	132	72%	▲	49	97%	○
	隠岐	627	67%	75%	286	95%	94%	152	77%	▲	68	100%	○
釣り・延縄	出雲	299	90%	112%	322	125%	122%	—	—	—	—	—	—
	石見	223	82%	98%	261	115%	118%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	207	100%	96%	231	98%	101%	—	—	—	—	—	—
いか釣り	出雲	97	64%	115%	138	80%	120%	—	—	—	—	—	—
	石見	87	75%	103%	118	87%	104%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	113	52%	90%	100	71%	117%	—	—	—	—	—	—

※ 全体の漁獲量・生産額・平年比は県内の全漁業協同組合・全経営体が対象。

平年比: 過去5年(平成30年～令和4年)の平均値との比較、沖合底びき網2そうびきのみ過去10年(平成25年～令和4年)

漁模様: ◎平年を上回る(120%より大きい)、○平年並み(80%以上120%以下)、▲平年を下回る(80%より小さい)

※※定置網の1経営体あたり漁獲量・生産額は集計対象期間(平成30年～令和5年)に操業実績のある大型定置網のみを対象に算出。